

霧島山（新燃岳）の火山活動解説資料

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

本日（28日）、気象庁機動調査班（JMA-MOT）が九州地方整備局の協力を得て、鹿児島大学と共同で実施した上空からの観測では、火口内の西側斜面に新しい噴気孔が確認され、周辺に噴石が飛散していました。

火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。風下側では、降灰及び風の影響を受ける小さな噴石（火山れき）に注意が必要です。

○ 活動概況（図 1～4）

本日（28日）、気象庁機動調査班（JMA-MOT）が九州地方整備局の協力を得て、鹿児島大学と共同で上空からの観測を実施しました。

昨日（27日）15時36分*の噴火により、火口内の西側斜面に新しい噴気孔（S19）が確認され、周辺に噴石が飛散していました。

赤外熱映像装置¹⁾による観測では、新しい噴気孔（S19）に熱異常域を観測しました。その他の領域に特段の変化は認められませんでした。

火口から約 1.5 km の中岳（火口の南南東）まで降灰を確認しました。

白色の噴煙が火口縁上 100 m 程度上がっていました。

*精査の結果、噴火の時刻を 15 時 37 分から 15 時 36 分に訂正しました。

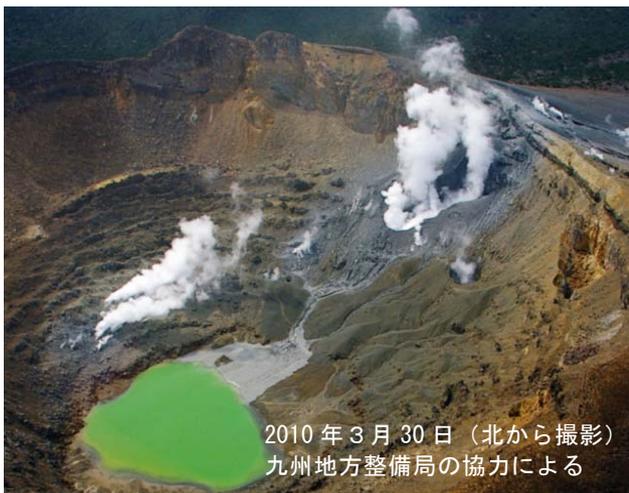


図 1 霧島山（新燃岳） 火口の状況

本日（28日）、九州地方整備局の協力を得て、鹿児島大学と共同で実施した上空からの観測では、火口内の西側斜面に新しい噴気孔（S19）が確認され、周辺に噴石が飛散していました。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、『数値地図 25000（地図画像）』を複製しています（承認番号：平 20 業複、第 647 号）。

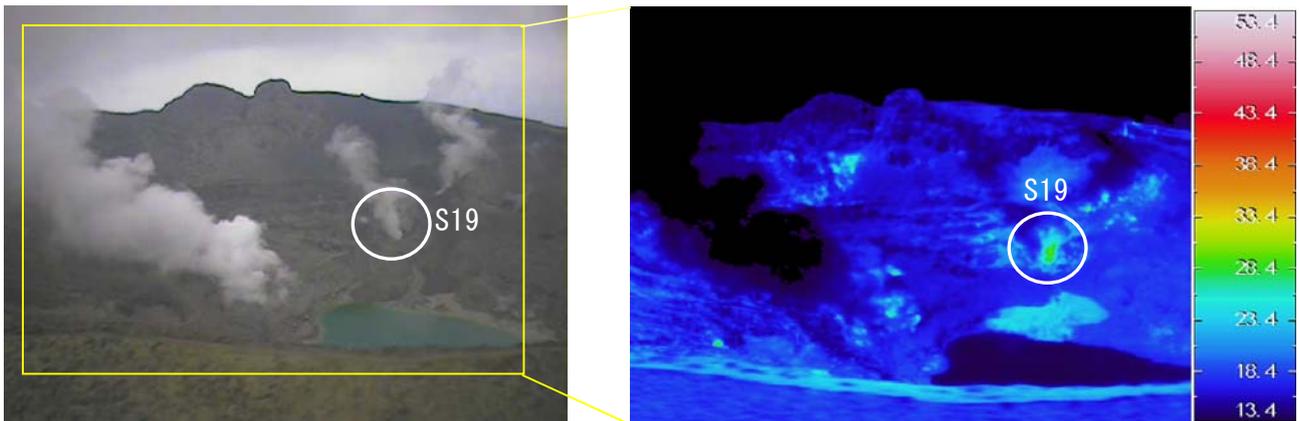


図 2 霧島山（新燃岳） 赤外熱映像装置¹⁾による火口付近の地表面温度分布（北東から撮影）
（2010年5月28日 九州地方整備局の協力による）
赤外熱映像装置¹⁾による観測では、新しい噴気孔（S19）に熱異常域を観測しました。その他の領域に特段の変化は認められませんでした。

- 1) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感じて温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

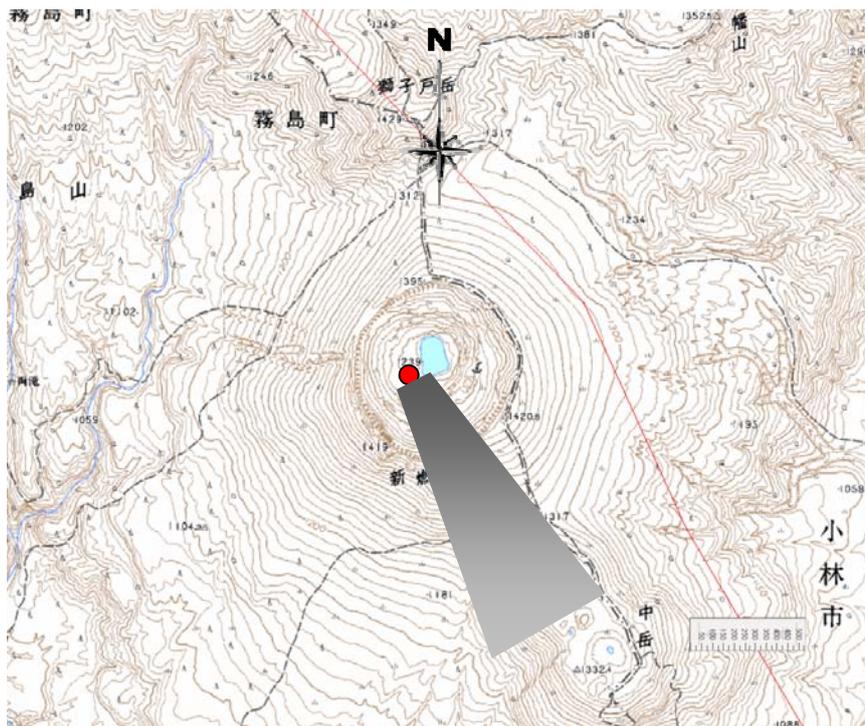


図 3 霧島山（新燃岳） 5月27日の噴火による降灰の状況
上空からの観測では、火口から約1.5kmの中岳（火口の南南東）まで降灰を確認しました。

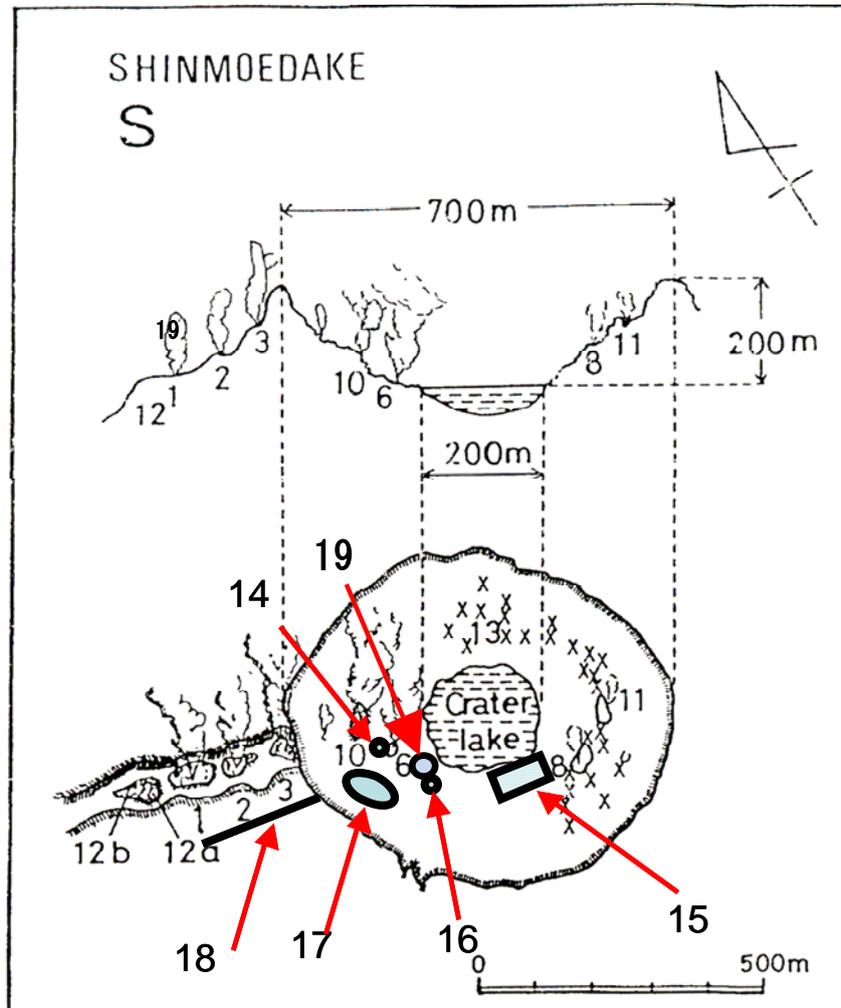


図4 霧島山（新燃岳） 噴気孔の位置図
火口内の西側斜面に新しい噴気孔（S19）が確認されました。